平成29年度の管理運営状況 (武蔵野の森総合スポーツプラザ)

指定管理者: 東京スタジアムグループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適正 な管 理の 履行	施設の提供について	開業前に決定していた予約に加え、地元市主催のスポーツ大会やコンサート等の誘致を行った。その結果、新たに決定したスポーツ4回、コンサート2回を含め、3月末までにスポーツ6回、商業イベント8回と様々なジャンルの主催者に円滑に施設をご利用いただいた。
	法令 の 遵守	環境配慮への取組	太陽光や太陽熱等の再生可能エネルギーや雨水利用を実施。このことについては、館内のデジタルサイネージで発信することで来館者や地域の方々への普及啓発も実施している。また、コージェネレーションシステムを天候や稼働状況を見て内部検討し、適切な運用策をとった結果、光熱水費を当初計画時より約1割削減することができた。
	安全 性の 確保	防災への配 慮・緊急時 対策	11月、一体的な警備・防災体制を構築している隣接スタジアムと合同で防災訓練を実施したのに加え、2月に館単独でも消火訓練、避難誘導訓練を行った。更に、館内サイン表示の充実や非常時連絡体制の整備等も評価され、3月には「優良防火対象物」の認定を受けた。
事業効果	利用の状況	利用状況	開業から3月末までに施設全体で221,857人のお客様にご来場いただいた。 メインアリーナ:使用率51.7% サブアリーナ:使用率64.7% プール(団体):使用率79.1% ジム・ブール(個人):利用者数33,154人 開業から徐々に増加し、1日当たりの利用者数は11月の119人/日から3月は395人/日まで増加した。 個人利用者向けに1月よりプール・ジム・スタジオのフリーパス会員を設定し、利用を促進。また、プールについては、可動壁により長水路・短水路に変更することができ、家族連れから競技者まで様々なニーズに対応した。団体によるレーン貸しも設定時間を固定化せず、利便性を向上している。
	事業の取組		〇スポーツ振興事業:9事業を実施し、延べ337人に参加いただいた。子供から大人まで各世代を対象にオリンピアン・パラリンピアンを招いた卓球教室やフットサル、空手等スポーツに親しむ機会を提供した。 〇地域振興事業:7事業を実施し、延べ714人に参加いただいた。パラサポセンターのご協力によるダイバーシティ理解促進講座や、日頃スポーツに馴染みのない方に施設に足を運んでいただくためのカルチャースクール等を開催し、近隣にお住いの地域の方々や多摩地域の自治体職員の方々にご参加いただいた。
		サービス向 上に向けた 取組	○筆談器の設置:館内2か所の案内所に筆談器を設置し、耳の不自由な方にも適切に情報を案内できるようにしている。 ○だれにでも利用しやすい自販機の設置等:敷地内に自動販売機を29台設置。ユニバーサルデザインの機器の導入を促進し、利用頻度の高いコンコース広場やメインアリーナ観客席フロア等に5台導入。また、一部の機器の売上額の8%を調布市福祉協議会に寄付を行っている。 ○駐車場利用者へのサービス向上:施設利用者等への割引サービスを実施。また、駐車場貸切時の他の利用者への影響がないようにするため、貸切エリアの柔軟な対応や隣接スタジアム駐車場への案内を実施。 ○地元鉄道会社との連携:大規模イベントの情報を事前に共有し、最寄り駅への特急等の臨時停車を行っている。当日も終了時刻の変更などに柔軟に対応し、お客様の円滑な交通アクセス確保を図っている。
		利用者ニーズの把握	館内へのご意見箱の設置や利用者アンケート(H3O年3月実施)により、利用者のニーズを把握している。寄せられた要望は、常に職員内で閲覧しているだけでなく、毎週実施しているグループ企業との定例会や月に数回開催する職員全体のミーティングで共有し、対応している。
		利用促進へ の取組	分かりやすい施設HPを作成し、隣接スタジアムHPと連動させてアクセス向上を図る。リーフレット4種(英語版含む)、チラシを作成し、最寄り駅での配布や近隣への新聞折り込み(5万部)を実施。その後も定期的に地元3市ヘイベントカレンダーを提供し、市報等に掲載いただいている。また、地元市をはじめとする見学を積極的に受け入れ、施設利用につなげている。加えて、メディアからの取材にも積極的に対応し、広く都民の方に施設を知っていただけるようTV、新聞、雑誌への露出拡大を図っている。

〔作成上の注意事項〕

[・]学げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。 ・<u>ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載しま</u>